

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭のように自由に楽しく笑顔のある毎日であるようにと、利用者の意思を尊重して接遇に努力している。	○	地域の中で暮らしているという気持ちで安心の場とする為に、地域へ出向いたり、自分の家に定期的に帰れる、あるいは遊びに行けるようなサービスで希望を持ってほしい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	優しいまなざし。 穏やかな言葉。 にこやかな笑顔。 職員全員が理念の言動を実践している。		いつでもホームの理念の精神で高齢者と接して実践していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家庭のような雰囲気の中で自由に生活していただきたい旨を家族にも伝え、そのために面会で意見なども気軽にお願いしている。	○	家族の意向での入所という利用者がほとんどであり、利用者本人にとっては家庭でも地域でもないという不安、怒りがある。この思いを希望のあるものへと変えたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	時々、近所の方の訪問があり、利用者およびスタッフと楽しい会話や利用者と共にその方の庭の花を頂きにいったりの交流がある。	○	今までのところ一軒の隣人との交流である。近くに一般の住居が少ない地域という理由があるが、利用者の友人の方々との交流が出来ればと考える。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としての活動交流は行えていない。近くの老人施設や当社の経営する他事業所との交流のみである。	○	地域の行事や活動に参加し、地元の人々と交流を持ち、事業所への理解を深めていただくようにしたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者と毎日いかに楽しく生活できるかの支援が精いっぱい、地域のために役立つことについての段階には至っていない。		運営推進会議の中で、民生委員などの方々のアドバイスを頂いて努力したいと考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価であり改善へのステップ、意識改革への意義であるとは理解するが、改善への取り組みにはまだ至っていない。	○	一つ一つの項目をしっかりと検討し、利用者の方々が希望を持って楽しく生活して頂くために、改善に努力したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回目の運営推進会議では顔合わさせのな流れで終わった。次回は自己評価の取り組みなどを報告し、ご意見やご協力をお願いしたいと考える。	○	サービスの向上、改善につながるご意見を頂き受け止めたいと考える。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は市町村担当者と連携はない。更新調査を民間の居宅介護支援事業所をお願いしている。	○	市町村担当者の来訪は職員としては監査というイメージがあり一歩引きたいが利用者の方々の生活をより楽しいものにする為にご意見を頂いてサービスの質の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会やマスコミの情報等でなんとなく聞いたことはあるという程度の知識である。現在は支援は行っていない。	○	支援できる様に学ぶ機会を作っていきたいと考える。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学ぶ機会は頂いた。全職員が人生の先輩として接しており事業所内での虐待はないと自覚している。	○	今後も全職員が人間尊重の精神で利用者の生きることへの支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接の時点から家族が中心となつての相談であり、利用者本人も納得しての入居という方は少ない。	○	家族と利用者両方の理解、納得が得られるように図ることが必要と考える。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話や生活を共にする中で、自由に意見や不満、苦情を言える状況であり、利用者の気持ちを共有し努力している。	○	利用者の不満の第一は、自由に外出したい、自分の家に帰りたいということであるが対応できていない。ここが自分の家という安心感を持って生活して頂くよう努力、対応が必要。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回本人の近況を郵送にて報告し、3ヶ月に1回は詳しく報告を行っている。随時必要に応じて電話での報告、相談面会時の会話を大切にしている。		今後も実施し、家族との連携を深めて利用者の生活に反映させたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や誕生会等の場で個々への意見交換を行っている。またアンケートを今までに1回行った。		事業所にとって、利用者が楽しく生活してもらうことが一番の喜びである。その為の家族のご意見が気軽に表せるようにしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と運営者は気軽に相談や意見を交わす状況であり、毎日のミーティングや会話の中から提案し、反映できている。	○	職員が主役であり、今後も現場の声、提案を受け入れ評価される事業所としていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員側の都合での勤務ではあるが利用者や家族に不備が生じてはいない柔軟な対応ができるよう確保できている。		今後も同じである。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ対象なし。		職員の移動は利用者へのダメージとなることのないよう配慮が必要と考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	開所時、職員は他の施設での経験者であり、信頼の上で現在まで支障なく来た。外部の研修は一部の職員である。	○	今後は内外の研修を行い、職員のレベルアップと利用者の楽しい生活への効果となりよう取り組んでいきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会を通しての交流を行っている。限られた職員のための研修会、交流であるが伝達を行い、サービスの質の向上に反映させている。	○	今後は全職員が相互訪問等の交流を持ち、自分の目と体で体験してサービスの質の向上に反映させていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の部屋が設けてないため日中をホールで過ごす。利用者と一緒にいることになり、心身を一時も休める場のないことがストレスとなっている面がある。	○	軽減のために工夫が必要。休憩室の検討や、職場を離れての親睦をはかれる場の検討も必要と考える。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	個々の職員の熱意や努力、勤務状況を把握しており、信頼関係が成立している為、各自向上心を持って働けている。	○	今後も現場を信頼する事が向上心を持って働けることである。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	初回面接での本人の発言、相談はなく、納得なしの入所である。信頼関係を築くため、毎日ホールで一日を過ごす生活であり、常に共にいて、不安や要求を受けとめている。	○	利用者の不安、求める内容は自分の家に帰りたいの一点である。入所までの期間をじっくり取って、本人家族が理解の上で良好な関係への支援が必要。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	面接から入所後も家族の不安や要望は十分に聞く機会を取って受け止めている。	○	家族との信頼関係が本人の希望となるような方向を探っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来訪される方はいろんなサービスも検討のうえでの相談であり、入居を希望されており、ほかのサービスの対応には至らない。	○	本人と家族の希望は対比であるため、初期における本人の不安が大きい。家族の意向のみでなく、本人の意向も見極める必要がある。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	理想であるが、家族が介護の限界にきての相談であり、本人が納得したうえでの入居はごく少ない。	○	本人が安心して納得のうえでのサービス利用がその後の生活が楽しいものとなると考える為、遊びに来ていただいたり、体験したうえでの開始となるよう家族の協力をお願いしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話など個々人の話に耳を傾けている。利用者全員が日中はホールで過ごしており、毎食の献立の相談をしたり、人生の先輩の経験や知識を学び常に共に支えあう関係である。	○	今後も個々の利用者の生活史を尊重し、家族のように、友達のように共に過ごし、利用者から学んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めて、利用者が楽しく生活していただけることをともに喜べる関係にあると確信している。	○	今後も家族とともに利用者の生活が向上していくように一緒に本人を支えていく関係を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族がいつでも来訪して、本人との会話やホーム内で自由に過ごしていただけるよう対応しており、本人と個々のきずなの強さが職員の喜びである。	○	理解のないまま入居となった利用者の中には、家族の面会がない人や、良い関係とはいかない人もあり、職員もつらい思いである。家族の協力を今後もお願いしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類、友人、知人などいつでも気軽に訪問していただける雰囲気を作っている。ドライブでなじみの町並みや我が家を見に行ったりの支援で喜んでもらっている。	○	今後は郷里訪問のような形での外出支援を家族と相談して計画し、実施できる支援をしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションやクラブなど本人の意思を尊重して全員が参加できる場の工夫をしている。	○	今後も強制ではなく、利用者同士が自然な形、姿で支え合える関係であるように、何気なく意図的に支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで、他の施設へ転居された方が2名あり、家族より1～2回本人の近況をお聞きしている程度である。	○	一期一会であり、機会を作って必要に応じてかかわっていく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿ってマネジメントしているつもりであるが、不満はないが家に帰りたいのが本人の希望である困難である。	○	一人ひとりの思いを大切に尊重し、その人らしい暮らしの支援をさせて頂くように努めたいと思う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接や家族、居宅ケアマネージャーと連絡、面接して把握に努めている。	○	今後もこれまでの暮らしを大切に支援させて頂きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に共に経過しており、心身の状態や毎日の生活行動を把握しているつもりである。	○	今後も職員一同気配り、心配を行いよりよく生きることへの支援をさせていただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の出来ること、出来ないことを職員で話し合い、家族の意向も聞いて介護計画を作成している。更新は継続作成となっている。	○	計画作成には家族の意向の方が強く、利用者本人の理解が得にくい。今後は利用者の意見や関係者との話し合いをしっかりと行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと、心身の変化に応じて職員で話し合い、家族と連絡を取り計画を作成している。	○	現状維持の計画となっており、本人の希望となる目標を取り入れられる計画になる様チームで努力していく。実行可能なプランとしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職の記入する介護日誌や個別のケース記録、バイタル、排泄チェックで情報を共有し、経過記録を取ってサービスの提供、計画の見直しに活用している。	○	実際に実践したことを記録に残し、職員全員が個々人の情報を共有して利用者の生活の質の向上を目標としていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームはホーム内のみの支援である。	○	ボランティアの支援も取り入れていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在まで支援、実践できていない。1回、運営推進会議の席にボランティアでハーモニカ演奏慰問で楽しんでいただいた。	○	利用者の方々が安心と楽しみの場所と感じていただけるように、多様な機関等の協力をお願いできるように努力していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2名の方が他の施設への転居を希望され、サービス事業者と連携等の支援をさせていただいた。	○	今後も医療面や経済面と必要性に応じて話し合いや支援をさせて頂く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在まで行っていない。	○	必要性に応じて相談していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望、意向を第一にしてそれぞれのかかりつけ医との連絡を密にしている。家族やスタッフ付添での外来受診4名、2医院から5名の往診となっている。	○	今後も適切な医療が受けられるように家族と相談しながらかかりつけ医との良好な関係を築いていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所前からのかかりつけ医であり、家族の意向によるものである。認知症専門医の治療への支援とまではいかない。	○	今後、症状によっては家族と相談し、受診支援も必要となると考える。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診の医療機関の看護師や地域の薬剤師に相談し、指導を頂いている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族の意向で病院側より連絡があり、通院が1件あった。医療機関に対して事業者側から意向を申し上げることは難しい。	○	入院は治療の場であり、長期入院は生活行動の低下につながると思う。今後は、こういう面も努力する必要がある。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに重篤や終末期のケアは体験していない。そのことについての家族、かかりつけ医との話し合いも行っていない。	○	重篤や終末期の方針について、家族、かかりつけ医との話し合いを行い全員で共有する必要があると考える。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在まで対象者がなく行っていない。	○	今後はマニュアル的な備えの検討が必要と考える。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	2名の方が他の施設を希望され、家族や移る側の関係者と本人の状態など話し合い、情報交換を行いお見送りした。その施設での受け入れも良く、元気で生活されている。	○	今後も本人、家族の希望に沿って情報交換を行い、新しい場所でも楽しい生活ができるように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者に対しての言葉や行動は、人間尊重を根底に対応している。記録等の取扱いも第三者の目に触れないように注意を払っている。	○ 一人ひとりの誇りやプライバシーの保護に今後も取り組んでいく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方々が気兼ねなく、自分の思いや希望を話せる雰囲気が出来ている。毎日の食事の献立や味付けなどの意見をもらったり、買物同行では、自分で選び自分で支払いなど。	○ 毎日の生活は、個々人の自由意思を尊重して自分で決め行動されている。人生の先輩であり、相談という気持ちでの対応で生活の支援を行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方がいかに楽しく、笑顔のある毎日を送って頂くか、そのことを念頭に置いて一人ひとりのペースに合わせて相談しながら共に過ごし、個々人の居場所を大切にしている。	○ 今後も利用者の方々を主体に、その人らしく暮らしていただけるように、気配り、心配りして居場所の支援をしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容はバスで来訪するカットマンを全員が利用されている。女性の方には化粧の声かけ、服選びなど本人の気持ちに沿って支援している。	理容、美容は本人の希望を聞いてパーマや染め、顔そり、カットなど満足されている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立の相談を行い、納得を得て決める。野菜の切り込みを出来る人、味見をする人、台拭きをする人、消毒、おしぼりを配る人、茶を入れる人などいつもともに楽しく行っている。	食べることは生きることであり、今後も一番の楽しみである食事は利用者の方々と相談しながら行い、健康への支援をしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日のおやつ、飲み物は利用者に相談し、準備して喜んでもらっている。たばこの人はいない。酒は日常的には出していないが、誕生会や行事の時に希望により支援している。	現在までの支援で喜んでもらっているが、食べることは生きること、何よりも大切に支援して頂く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間オムツ使用の方が3名おられるが、日中は座位の生活で、本人に声かけて随時トイレでの排泄介助を行っている。トイレでの排泄があった時はともに喜んでいる。	○	今後も気持ち良い排泄で笑顔で生活していただけるよう、リハビリ、パット内ではなくトイレでの排泄を支援しともに喜びたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の好きな方もあり希望に沿って支援したいが職員数や危険多い入浴は職員の都合で決めざるを得ない。	○	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	2名の方は午前、午後と少しの時間を自室のベットに横になられている。他の方々は全員、一日中をホールで過ごし、ソファで眠ったりそれぞれの居場所が出来ている。	○	体調のすぐれない方はホールから自室へ行きベットで休むように声かけを行っている。夜間は安眠できるようにコミュニケーションやスキンシップの支援を行っている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事作業を出来る人とともにしている。民謡の得意な人、書道が得意な人、生け花の好きな人などその人の趣味に合わせて支援を行っている。	○	毎日の生活を楽しいと感じてもらい、安心、安全の居場所であるように常に共に行動をしている。本当に楽しいと思って頂くよう今後も一人ひとりの力を生かした支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度は本人が財布に入れて所持している。2名は管理が困難なので家族から預かっている。買物同行の際はそれぞれ自分で選び自分の財布から支払ってもらうように支援している。	○	金銭管理を自分で行うことは社会生活にかかわっているという気持ちになり、大切なことと思っている。一人ひとりの希望に沿って自立を支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々人のその日の希望に合わせての外出支援は難しいが、何人かの希望に沿ってドライブや買い物、近隣近くの散歩などの支援を行っている。	○	毎日帰宅希望、外出希望のある方が多いが、一人での外出は危険であり、限られた介護職がその都度付き添うことは困難なため、何人かで外出付き添いとなる。自分で行きたいという不満がある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別で行って見たい所への支援は難しい。何人かで花を見に行くとか懐かしい市内をドライブするとかである。家族が墓参りや孫の行事への付き添いはされている。	○	今後は全員での外出はもちろん支援していくが、一人ひとりの行きたい所への外出支援も家族と協力して実施していきたいと考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば支援しているが、電話したことをすぐ忘れて繰り返しの相談もあり説明している。家族も続けての電話は迷惑の方もいる。	○	家族との電話のやり取りは本人にとって大切であり、安心となる為今後も支援していくが、物忘れのある方には記録しておいて続けてかけたり、家族の負担にならない様に話し合い支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会のほとんどない方があり家族へお願いしている。ほとんどの家族は定期的に来訪され、利用者の部屋でゆっくり会話されている。いつでも気軽に来訪していただけるように家族との接遇に努力している。	○	本人の家族、知人、友人の方がいつでも気軽に訪問していただけるようにあいさつや言葉遣い、表情など言動には日頃より全職員が意識しており、良い雰囲気と自負している。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の行為を理解している。現在まで身体拘束は行っていないし、していないと確信している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全居室には鍵は付いていないが、玄関は施錠している。		施設の前が道路や川があり、事故の危険性が高い為施錠している。一人ひとりの自由な外出を見守れる体制ではない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は1時間毎の巡回、見守りを行い安全の気配りを行っている。日中も一人ひとり自由に行動してもらっているが、全員の所在や様子は把握し安全に努めている。	○	今後も安全確認を実施していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	大切な保険証関係と薬はホームで保管、管理している。ハサミなどは自分で持っている人もあるが、そのための押し付けはせず注意は払っている。	○	家族のような雰囲気がモットーであり、危険防止の注意は気配りしながらも人としての普通の支援を行っていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	保好のふらつきがあり転倒の危険のある方の移乗や移動はコミュニケーションを図りながら支援を行っている。食事や服薬は細心の注意を払って見守り介助を行っている。	○	ミーティングの中で話し合い、知識を共有して事故防止に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応についてホームでの訓練は行っていない。	○	全職員が他施設等での知識を話し共有しているが、今後は定期的に訓練を行うことが必要と考える。マニュアル化しておく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員間でミーティングの時に話題にはしているが、災害対策としての非難の方法や地域の人々の協力体制はできていない。	○	避難方法を身体で学び、地域の人々との交流やマニュアル化しておくことが必要。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	玄関を開放することは転倒や交通事故、徘徊による迷いなどの危険があることを契約時や面接時に説明し、了解を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルサイン、食事摂取、排泄チェック、体重測定などの徹底を行い連絡ノートの活用、ミーティングでの話し合い、速やかな伝達を行い情報を共有して体調変化を見逃さない取り組みをしている。	○	今後も報告、連絡、相談を確実にし、全職員で情報を共有し、利用者の安心と安全、健康面の支援を行っていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はホームで保管、管理を行い、主治医の指示、薬の説明書に従い正確に服薬の支援を行い症状の変化の確認を行っている。	○	今後も主治医、家族と連絡を行い正確な服薬支援を行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は食欲不振や、腸閉塞など健康を損ねる原因となる為、排泄チェックを行い繊維質の多い食材や牛乳、水分補給の徹底と運動への支援を行っている。	○	便秘の予防のみでは高齢者の快便とはならないのが現状である。主治医に相談し、その人に合った便秘薬の支援を行い排便をともに喜んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの自立の声かけや義歯のみの人、自歯の残っている人、一人ひとりに声かけて確認、舌の状態や口の中の残留物の除去などの支援を行っている。	○	今後も自立を促し確認を支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は栄養バランスに心配りをし、摂取量のチェックを行っている。一人ひとりの好み、状態に応じて対応している。午前、午後のおやつ、水分量の確保にも努めている。	○	今までに食欲不振の人への対応は栄養補助職員で補い改善している。歯の具合の悪い方の場合、歯科医に往診してもらい改善する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防については手洗いの観光、手の消毒を全員実施している。食器類の加熱処理や排せつ介助の際は手袋を付け実施している。	○	感染症予防について全員が話し合い自覚し徹底しているが、今後マニュアル化しておく必要がある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は確実に冷蔵、冷凍し賞味期限など安全を確認している。食前の調理と食器の加熱処理を行っている。	○	調理担当の衛生管理の自覚を今後も徹底していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鍵がある為近隣の人たちが気軽にという親しみやすさには遠いかもしいない。	○	玄関前にはスロープと階段があるが、踊り場が狭い為、出入りに危険を感じることもあり検討が必要。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は回廊となっており、散歩に役立っている。浴室は一人づつゆっくり入れるスペースである。トイレは集合トイレであるが、転倒に留意している。リビングホールは日中全員がほとんどをすごしており、ソファなどそれぞれの居場所となっている。		日中のほとんどをすごすホール、リビングはテレビや花を生けたり、本棚があったりと思いいの場所でゆっくり過ごせる場所である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは食事をする為のテーブルや椅子、ソファをいっぱい置いてあり、一人ひとりが思い思いに過ごせるように居場所を工夫している。	○	今後も自由に楽しめる場所の提供を工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の額や家族写真、ぬいぐるみ、毛布など自宅で馴染んだもの、テレビを自由に持ち込み、居心地良く過ごして頂くように家族と相談しながら生活していただいている。		個室でスペースも十分ある為、今後も本人の好みのものと共に生活していただけるように支援させて頂く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏期は暑さをしのげるエアコンの温度調節を行い、外気温と大きな差がないよう配慮している。窓を開けての空気の流れ替え、換気扇の作動。冬季はエアコンと加湿器で乾燥を防ぐ対策。	○	健康に生活して頂くために今後も利用者の状況に応じて換気をこまめに行い、季節に応じた温度調節に気配りを行っていく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の皆さんが建物の中を自由に安全に行動していただけるように広いスペース、手すりなどを設置。廊下から居室の入り口の段差をなくし、物を置かないようにし、転倒のないような環境に工夫している。	○	今後も自立して行動できる環境への配慮を行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの方が自室、トイレ、ホールと自覚して生活しておられる。	○	食事する時の自分の席、トイレ、洗面所、自室がわからない方がおられる。常に見守りと声かけ誘導を行い、混乱や失敗は今のところふさげている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小さな花壇があり、水やりや花を眺めたりの楽しみを提供。近くの民家の庭の花を頂いたり交流などである。	○	近い将来庭を作っていただき、季節に応じて戸外での運動や茶会などが行えれば利用者の楽しみと開放感が味わえると思う。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

優しいまなざし、穏やかな言葉、にこやかな笑顔、この理念通りを日々現場で実践する為に利用者の方々を人生の先輩として接遇すること。介護技術も大切であるが、その技術に心を添えること。家族のような関係であること、高齢者の知識を学ぶことが利用者の皆さんが毎日笑顔で暮らせることである。